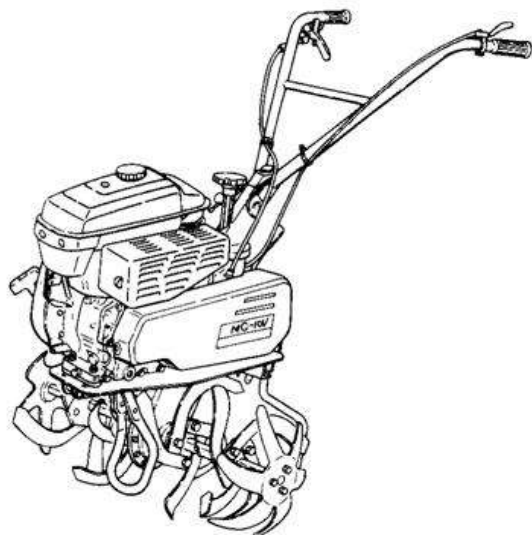


マメトラテトラ

MC-10V ★取扱説明書★



マメトラ

マメトラ農機株式会社

もくじ MC-10V

はじめに	2
1 特長	3
2 仕様	4
3 各部の名称	5
4 運転前の注意	6
5 潤滑油	7
6 本機各部の構造と調整	10
7 作業機の取付	13
8 不具合と対策方法	15
9 手入と保存方法	17
10 安全作業のための心得	18
● MC-10V 爪取付要領図	20

はじめに

このたびは **マメトラMC-10V型** をお買い上げ戴き、厚く御礼申し上げます。

農業機械化の伸展は誠にめざましいものがあり、耕耘機は強馬力、大型化の方向に進んでおりますが、『やはり小型でなければ』と小型のもつ軽快性、経済性が再認識されてまいりました。

これらの御要望に答え、マメトラが皆様に贈る『必要にして充分な機構』をコンパクトにまとめた傑作**MC-10V** であります。

この優れた**MC-10V型** の性能を充分発揮して戴くために日頃の適切な点検整備、調整を必要とすることは申すまでもありません。

それは快適な作業能率と豊かな稔りをお約束致します。

この**MC-10V型** ティラーがあなたのよき伴侶として末永くお役に立ちます様心からお祈り申し上げます。

1 特 長

(1) 快適なエンジン

ハウス内作も快適に出来るよう、エンジン・騒音・排気等を考慮し、定評ある4サイクルエンジンを搭載しています。

(2) 豊富な作業速度

前進2段、後進2段の速度が作業内容に合わせて選べます。

(3) 豊富な作業機

ナタ爪ローターからロータリー作業まで豊富な作業機が取付可能です。ロータリー作業は車軸耕に比べ作業が非常に楽に行なえ、能率も数倍上です。

(4) 狭くて丈夫なミッション

うね間作業が出来る様、ミッション巾を可能なかぎり狭くしてありますし、又石等に当たっても丈夫な鉄板製です。

(5) 自由なハンドル

作業者に合わせて、ハンドル上下(3段階)はもちろん左右回動(円周30等配)も可能です。

(6) 本格的なナタ爪ローター

爪の形状は独特で非常に深く耕うん出来、馬力をあまり必要と致しません。耕巾も700~290mmと広くも狭くも調節できます。

(7) 完璧な安全設計

エンジンからの伝導ベルトはもちろん、動力取出軸も完全にカバーされ、安心して使用出来るよう考慮してあります。



2 仕様

(1) 本機

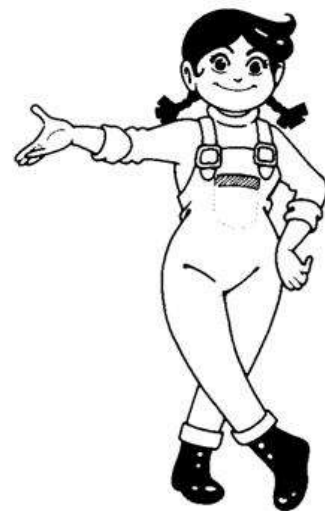
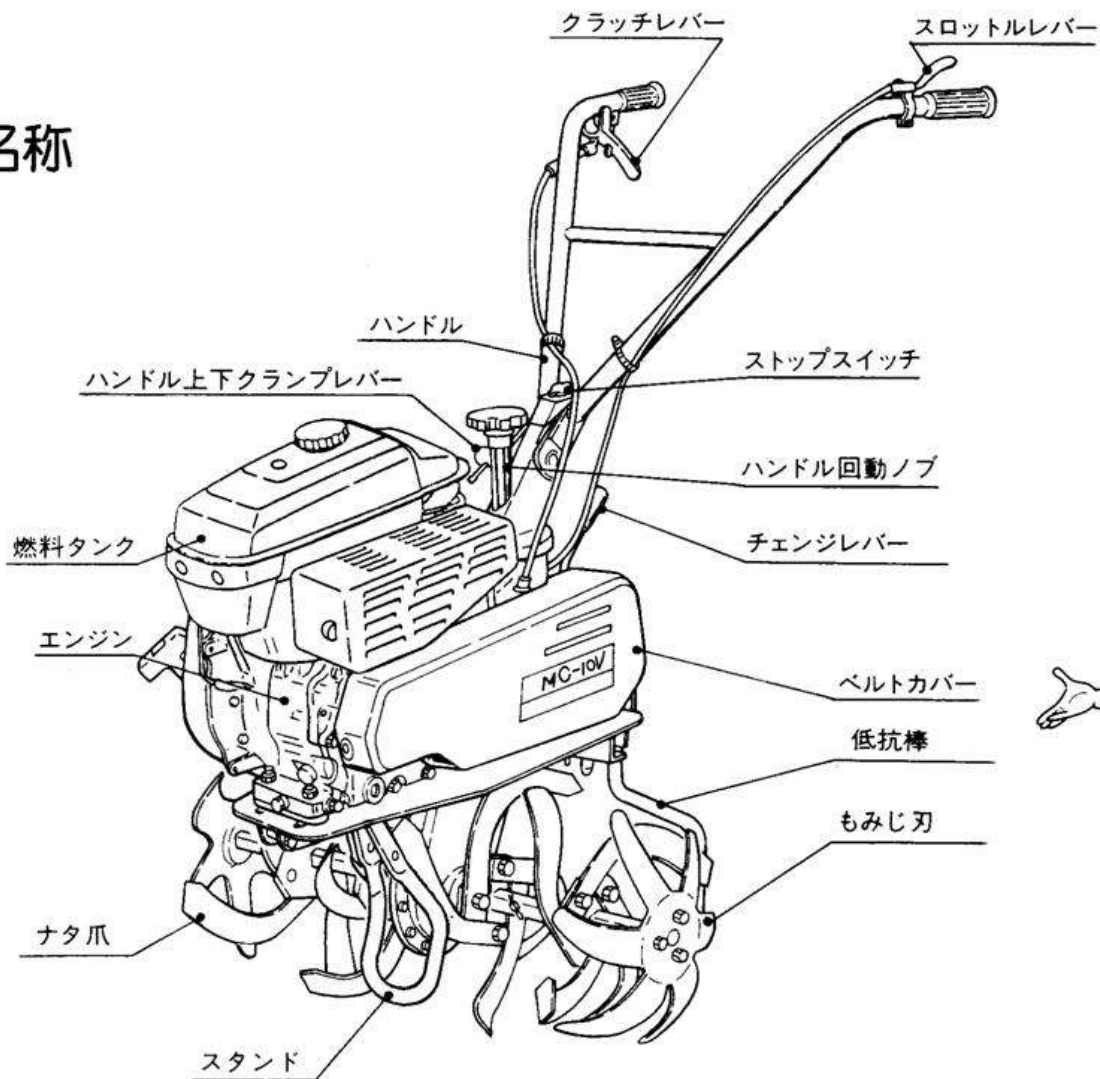
項目		仕様			
型式		MC-10V			
機 体 寸 法	全長	1140mm			
	全巾	640mm			
	全高	1100mm			
	重量	35kg(ナタ爪ローターは除く)			
主クラッチ方式		ベルトテンション式			
変速段数	前進2段	車軸回転数 (rpm)			
		F ₁	F ₂	R ₁	R ₂
		33	72	24	52
車軸形状		6角軸 対辺18mm			
作業巾		もみじ刃付	もみじ刃なし		
	ナタ爪ローター4連	700~650mm	550mm		
	ナタ爪ローター2連	400mm	290mm		
PTO回転数		低速: 720rpm 高速: 1573 rpm			

(2) エンジン

項目	仕様
名称	GM131 LN-363
形式	空冷4サイクルガソリンエンジン
総排気量	126cc
連続定格出力	2.8ps/1800rpm
最大出力	4.0ps/2000rpm
回転方向	左(出力軸より見て)
使用潤滑油	自動車用エンジンオイルSAE#30または10W-30
使用燃料	自動車用ガソリン(無鉛)
燃料タンク容量	3.0ℓ
点火プラグ	NGK・BP5ES
乾燥重量	15.5kg
寸法(全長×全巾×全高)	308mm×345mm×336mm

3

各部の名称



4 運転前の注意

機械の性能を快適に保つためには日頃の点検、整備、調整が機械の寿命に大きく影響します。

次の点に御注意下さい。

1. 各部のボルト、ナット類のゆるみ、脱落の有無を点検して下さい。
なお10～20時間使用後に各部の増し締めを行って下さい。
2. 各注油箇所に指定の潤滑油が適正量入っているか点検して下さい。
輸送中の油洩れ防止のため油が入っていない場合があります。
3. クラッチレバー、アクセルレバー等が正しく作動するかを確かめてから運転を始めて下さい。
4. Vベルトは運転初期に多少伸びます。そのままですとスリップしますから2～3時間運転後に張り直して下さい。
5. 新しい機械は最初2～3時間は無理な運転を避けてナラシ運転をして下さい。
6. 運転時に異常音または異常な発熱はないか点検して下さい。



5 潤滑油

(1) エンジン

1) エンジンオイル

エンジンオイルは入っておりません。使用前に必ずエンジンオイルを正規量入れて下さい。使用オイルはSC級 SD級 SE級の良質の新しいオイルを使用して下さい。(5-1図)

夏期……SAE-30 SAE10W-30 SAE10W 40

冬期……SAE 20 SAE10W 30

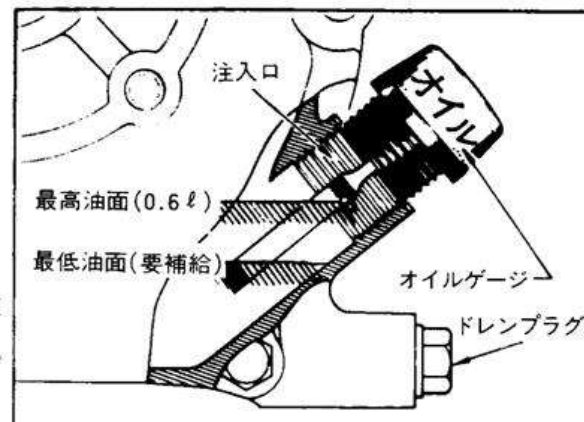
2) チョークレバーの操作

チョークレバーの操作は寒い時は「閉」にして下さい。始動後は徐々に「開」にして下さい。一度暖ったエンジンを再始動する場合は、チョークレバーを「開」又は「半開」にして下さい。(5-2図)

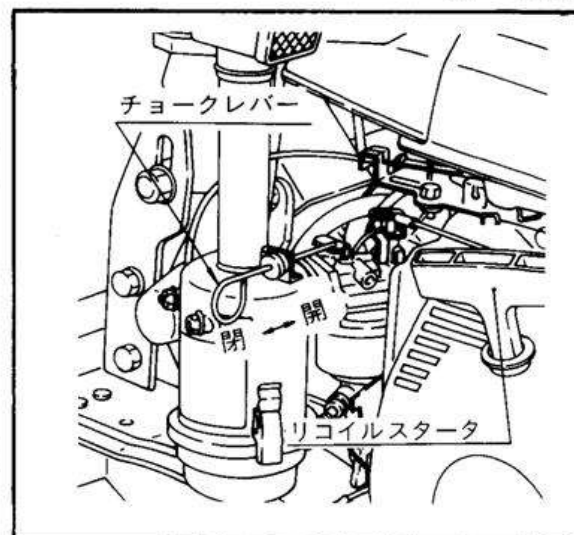
3) リコイルスタータ

チョークレバーを「閉」にしてリコイルスタータを勢いよく3回位引張っても始動しない場合は必ずチョークレバーを「開」にしてやりなおして下さい。もしチョークレバーを「閉」のまま何回もリコイルを引張りますと燃料の吸過ぎとなり点火プラグも濡れて始動不良となります。

(5-1図)



(5-2図)



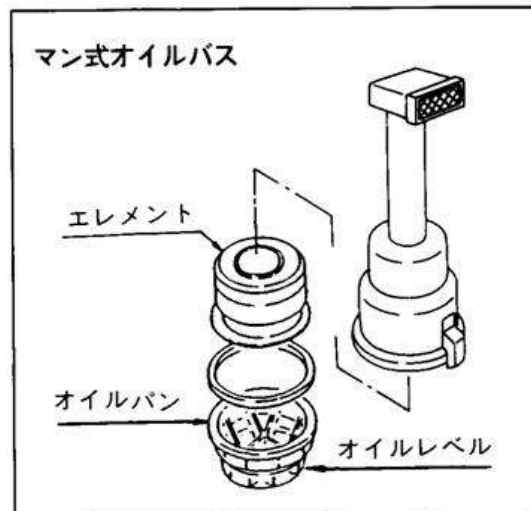
(5-3図)

4) 暖機運転

エンジンが始動したら、3分間位負荷をかけずに暖機運転をしてください。オイルを各部へ十分にゆきわたらせるのと同時に作業をさせても大丈夫な状態にする為です。

5) オイルバス式

オイルが不足しているときは、オイルレベルまで補充してください。汚れがひどいときは、オイルパン、エレメント共白灯油で洗浄し、エレメントは点滴しない程度に振切ってください。(5-3図)



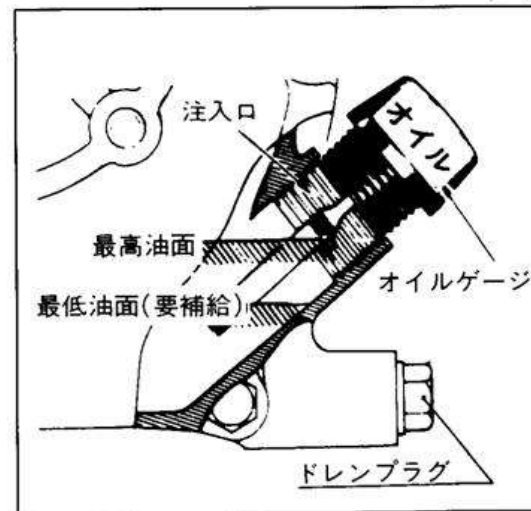
(5-4図)

6) エンジンオイルの交換

エンジンクランク室	1回目交換	2回目の交換
オイル交換時間	20時間後	50時間ごと

エンジンオイルが汚れていると各部の摩耗を早めますので早めに新しいオイルと交換してください。エンジンが暖っている間にドレンプラグを外して古いオイルを抜きますと簡単に出来ます。(5-4図)

潤滑油量 0.6ℓ



(5-5図)

(2) ミッションケース

SAE 90番の良質ギヤオイルを使用して下さい。

注油は右側面注油口から規定量 (0.8ℓ) 入れて下さい。

注油口より油面が見える程度が適当です。(5-5図)

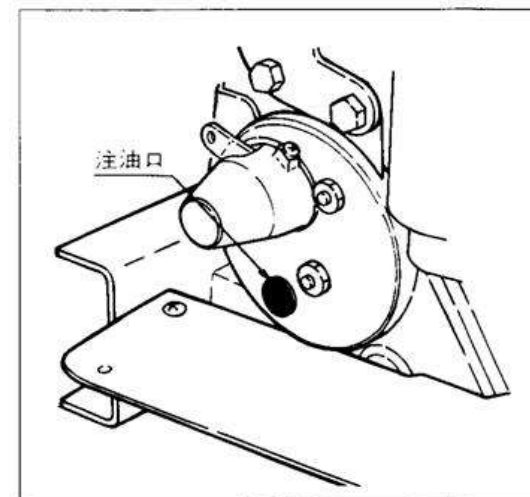
油を抜く時は排油口より抜いて下さい。(5-6図)

(注意)

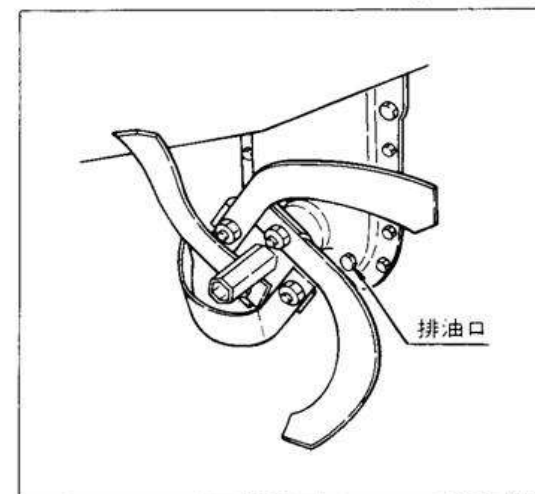
ミッションケースのオイルは最初の10~20時間使用したら一度交換して下さい。

最初は初期摩耗がありますので早めに御願います。またその後は年1回か2

回交換して下さい。長く使うと老化して油としての用をなくします。



(5-6図)



(3) 各摺動部

各摺動部にはギヤオイル、またはモーターオイルを適宜滴下して下さい。また車軸には必ず油をつけてホイールチューブを取り付けて下さい。

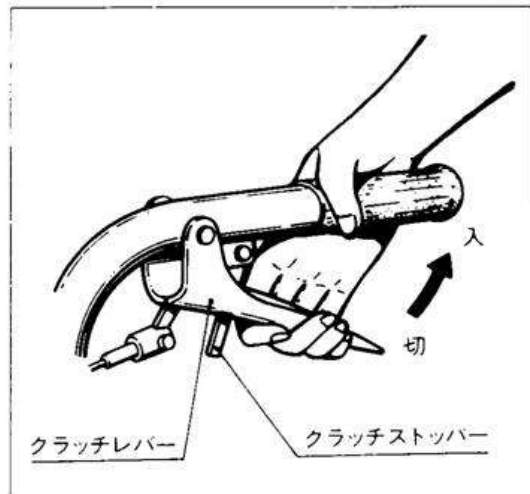
クラッチワイヤにも時々注油して下さい。

6 本機各部の構造と調整

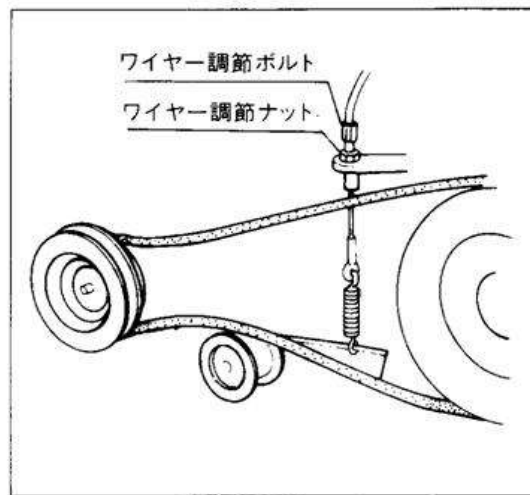
(1) クラッチレバーの操作

- ① ハンドル右側部のレバーを握り、レバーが上った状態でクラッチが入ります。クラッチを入れるには、右手4本の指でレバーを握ると、クラッチストッパーがカチリと入りクラッチがロックされます。(6-1図)
- ② クラッチを切る場合はクラッチレバーとクラッチストッパーの両方を一緒に握り同時に放すと切れます。クラッチはベルトの緊張によって行われますのでこの調整には特に気をつけて下さい。ベルトの張りが弱いとベルトが早く傷み動力の伝達効率が悪くなります。張りが強いとクラッチが切れず大変危険です。クラッチを入れてもベルトの張りが弱い場合には(6-2図)ワイヤー調節ナットを緩めワイヤー調節ボルトで調節します。それでも出来ない場合にはエンジン固定の4本のボルトを緩めエンジンを前方に移動させてベルトの張り具合を調整します。

(6-1図)



(6-2図)



(2) スロットルレバー

ハンドル左側握部に付いています。(6-3図)レバーを内側方向に廻すとエンジンの回転が上り馬力が出ます。外側に戻しますと回転は下ります。

又、始動時にはレバーをSの位置にしてスタートして下さい。

(3) 変速機構

1) チェンジレバー

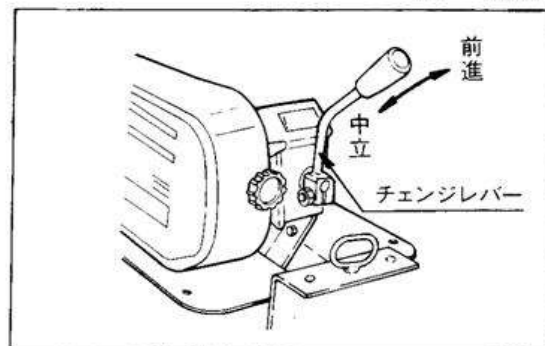
チェンジレバーを中立の位置から右に倒すと前進します。

チェンジレバーの操作は必ずクラッチを切ってから行なって下さい。(6-4図)

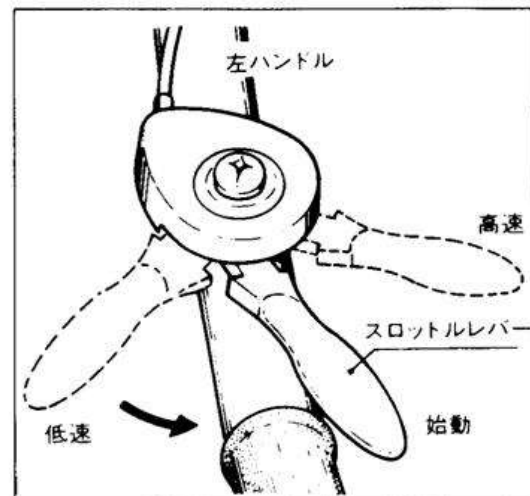
2) ベルト掛替

ベルトを掛替える事により前進2段の速度が得られます。先ずベルトカバーを外してベルトを作業に合せて低速、高速のいずれかにセットして下さい。ベルト取外しの際は本機側より行ないセットの際はエンジン側より先に行ないますと楽です。(6-5図)

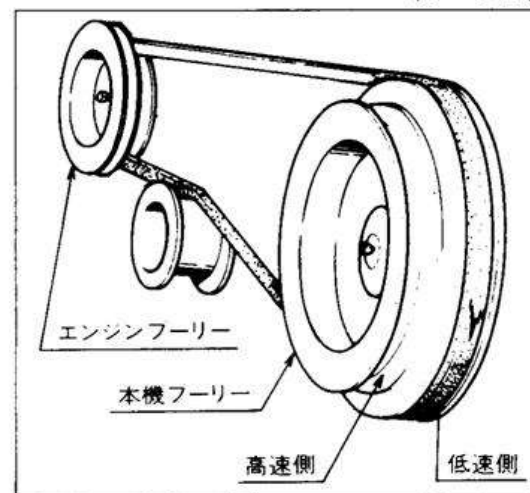
(6-4図)



(6-3図)



(6-5図)



(6-6図)

(4) ハンドルその他

①上下について (6-6図)

上下の調節はハンドル上下クランプレバーをゆるめて横に押し、ハンドルの高さを決めた後、ボルトの角根部を角穴にあわせて締め込みます。

②回転について (6-6図)

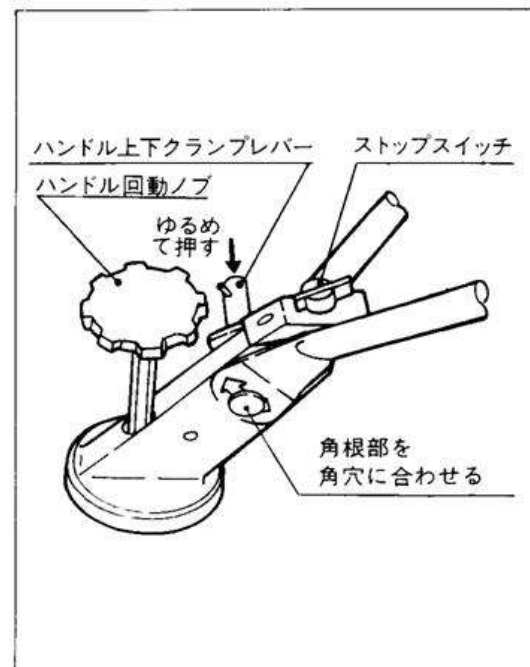
前後、左右の回転は、ハンドル本体上部の回転ノブを緩めてプーリー側に廻して下さい。菊座締付となっておりますので12度毎の固定が出来ます。

③エンジン停止 (6-6図)

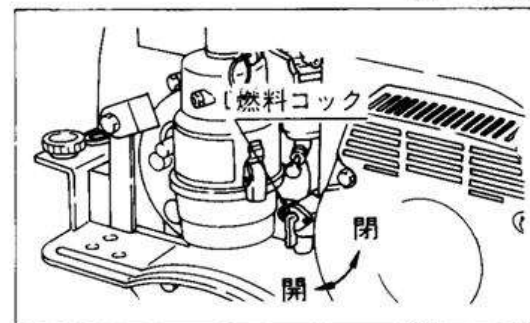
エンジン停止の際は、スロットルレバーを「低速」に戻しハンドル中央部にあるストップスイッチを「OFF」にして下さい。

④燃料コックを「閉」にする (6-7図)

作業機の取付、運搬等の際は必ず燃料ストレーナーを「止」にして下さい。前に倒しすぎますとガソリンがエンジン内でオーバーフローする事があります。又、後に倒しすぎますとエアークリーナーエレメントにオーバーフローしエンジンの始動不良をおこします。



(6-7図)



7 作業機の取付

1) 車軸部の取付

車軸部は伝達効率の良い六角軸ですから作業機の取り付け、取り外しが楽です。

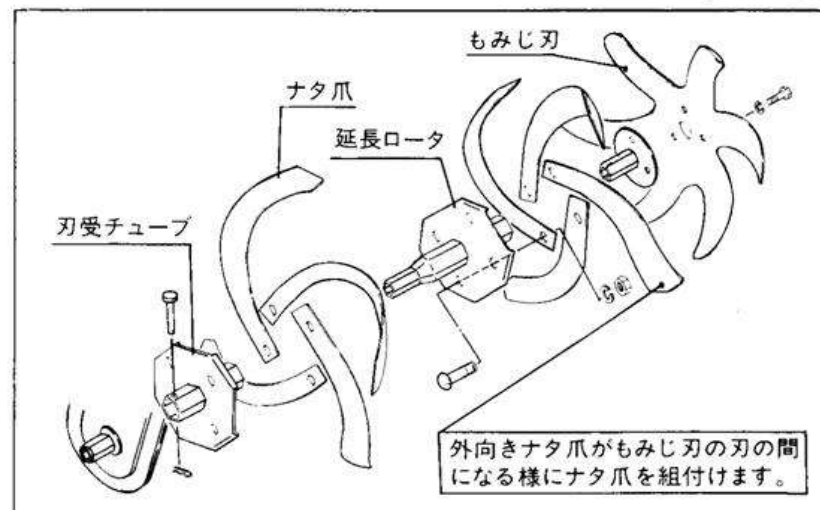
六角寸法は対辺18mmとなっております。

標準ローターの取り付けは、(7-1図)の様に組付けてください。(20ページ

も参照)各種ロータリー(R22C, R30S, R31S)作業はベルト低速側で作業し

ます。各種ローター作業はベルト高速側で作業します。

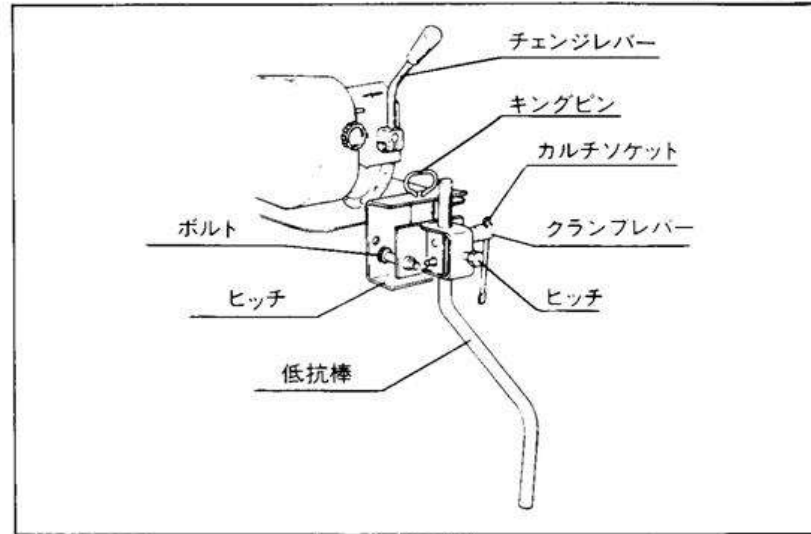
(7-1図)



(7-2図)

2) ヒッチ部の取付

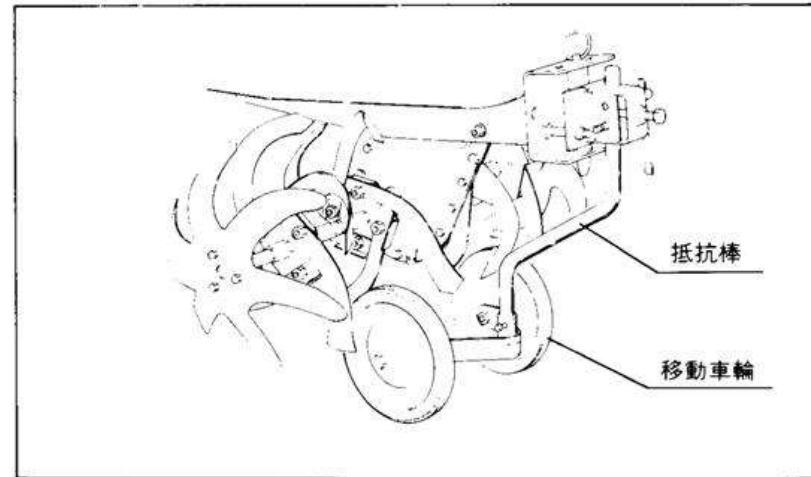
カルチソケットは、キングピンを差し込んで取付け、左右のボルトで固定します。角(丸)し棒を取り付けこれに培土器等の取り付けを行ないます。作業者に合せて抵抗棒の高さを調節して下さい。(7-2図)



(7-3図)

3) 移動車輪の取付

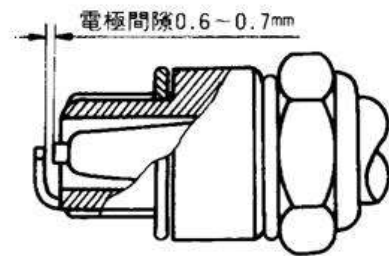
移動車輪は(7-3図)の様に取付けます。移動車輪がナタ爪に当たる時は、ナタ爪ローターを当たらぬ位置までまわして下さい。



8

不具合と対策方法

不 具 合 内 容	対 策 方 法
<p>エンジンの始動不良</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 ストップスイッチ及びスロットルレバーの確認 ストップスイッチを「ON」の位置にしてスロットルレバーを「S」の位置にして下さい。 2 燃料の確認 燃料が充分入っているかどうか確認して下さい。少い場合はタンクの口元迄給油して下さい。又、燃料ストレーナーのコックを「開」にして下さい。 3 チョークレバーの確認 チョークレバーの操作は、寒い時は「閉」にして下さい。始動後は徐々に「開」にして下さい。暖ったエンジンを再始動する場合はチョークレバーを「開」又は「半開」にして下さい。 4 点火プラグの確認 チョークをしすぎたり長時間機体を前方に倒したままにしておくとプラグが湿りがちとなりますのでプラグを外して掃除をして下さい。尚プラグの隙間は0.6~0.7mm（ハガキ2枚分）が標準です。 プラグはNGK. B-6HS です。



不 具 合 内 容	対 策 方 法
<p>エンジンの馬力不足</p>	<p>1 エアークリーナーの点検 エアークリーナーのエレメントは塵により目詰りします。普通は20～50時間の点検ですが塵の多い作業では早く目詰りしますのでエレメントは灯油できれいに洗いよく乾してから新しいエンジンオイルに浸し固く絞って余分なオイルを振り落して組込んで下さい。オイル分が多いとすぐに目詰りします。</p> <p>2 リコイルスタータの目詰り点検 リコイルスタータの吸気口にワラや草等がつまりますとオーバーヒート気味になりますので掃除をして下さい。</p> <p>3 エンジンオイルの点検 エンジンオイルは規定量入っていますが、エンジンオイルが汚れていると各部の摩耗を早めますし、又傾斜地等で使用の際はオイルが少ないと焼付をおこしますのでオイルの補給をして下さい。エンジンを水平にしてオイル注油口のキャップをねじこまず差し込んで点検して下さい。（規定量500cc）</p> <p>4 車軸部の点検 草やワラ等の多い所で作業の際は各種ローターに巻きつき余分な馬力を必要としたり、又、作業性能も悪くなりますので時々掃除をして下さい。エンジンは必ず停止して作業して下さい。</p>

9 手入と保存方法

長時間運転しない時や長時間保存する場合は次の手入を行なって下さい。

1 本機の清掃、洗淨、注油

泥、ゴミ、塵りなどは水洗し、水洗後はよく水分をふきとり各回転部、摺動部にたっぷり油をさして下さい。

2 オイル交換

オイル交換は作業が終って潤滑油の暖いうちに行ないますと大変楽ですし、又きれいに排油する事が出来ます。

3 シリンダー内の錆付防止

点火プラグを外し、プラグの穴よりエンジンオイルを約10cc位入れ、リコイルスタータを2～3回引いてプラグを取り付けて下さい。圧縮のある所で止めて下さい。

4 燃料タンク、キャブレター、燃料コック内のガソリンは完全に抜き取って下さい。

5 クラッチレバーを「切」にして下さい

クラッチレバーを切にしてベルトをたるませておいて下さい。クラッチを「入」にしておきますとベルトに無理な力が働きベルトの形状が変形する事があります。

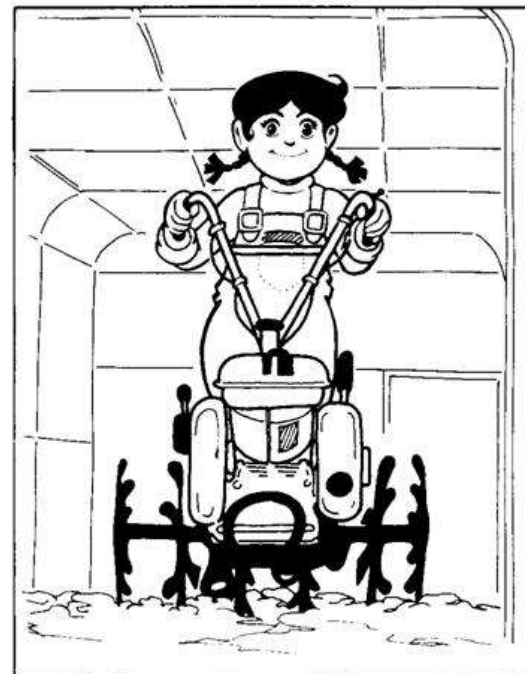


10 安全作業のための心得

- (1) 過労・病気・薬物の影響・その他の理由で、正常な運転操作ができないと思われる場合は機械作業に従事しないで下さい。
- (2) 適正な帽子や作業衣を使用し、衣服の一部や頭髮・手拭等が巻き込まれないようにして下さい。
- (3) 作業前には常に正常な機能が発揮できるように各部の点検整備に心掛けて下さい。また、作業後にも、次の作業のために点検整備を実施して下さい。
- (4) 機械の点検調整や草の巻付の除去する作業等は、必ずエンジンを止めてから行なって下さい。
- (5) 作業機の着脱はできるだけ平坦な場所で行なって下さい。
- (6) エンジンを始動させる場合は必ずクラッチを切ってから行なって下さい。
- (7) 燃料を給油する場合はエンジンを停止し、火気は厳禁のこと。特にくわエタバコでの給油は絶対にやめて下さい。
- (8) 作業中は作業関係者以外の者を機械に近寄らせないで下さい。特に子供には注意が必要です。
- (9) 作業中は機械の周囲に注意し、安全を確認して下さい。
特にバック作業時には足元の注意が必要です。また、バック発進時にはハンドルが取られやすいので静かに発進して下さい。

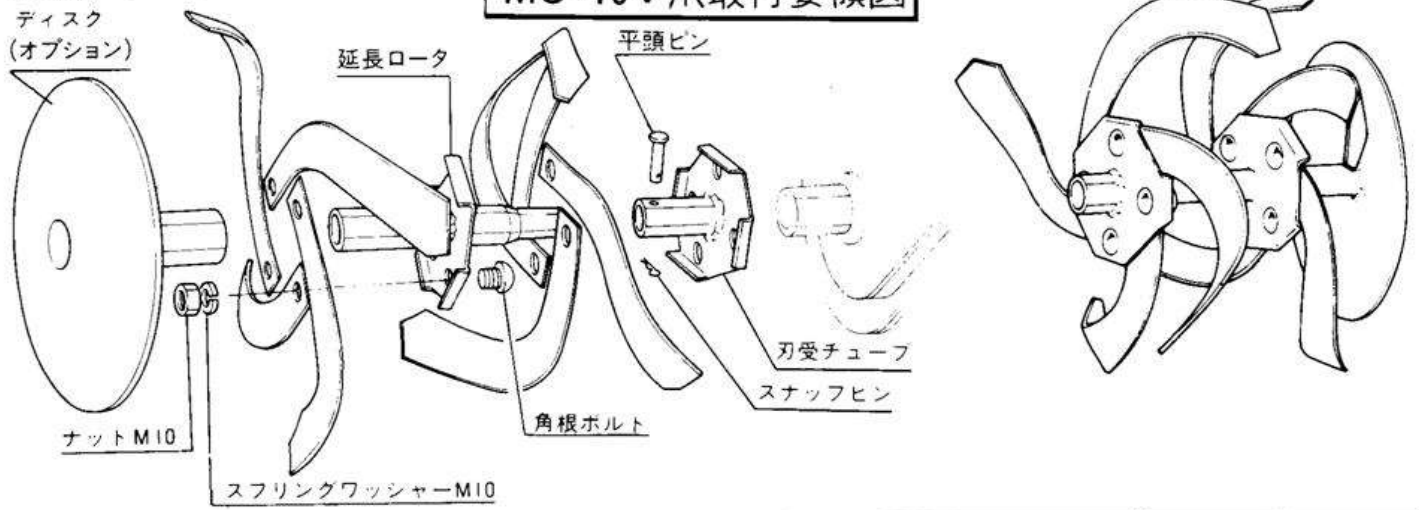


- (10) ハウスの作業や屋内での点検整備では排気ガスがたまり易いので換気には十分な配慮が必要です。
- (11) エンジンのマフラーは非常に高温になりますので絶対に触れないで下さい。
また、機械におおいをかける場合はマフラー等の高温部が完全に冷却した後で行なって下さい。
- (12) 定置作業の場合等にベルトカバーをはずして作業機をセッとする時は周囲に柵等を設け、手等がまちがって触れる恐れがないようにして下さい。



150ナタ爪 (ディスク)

MC-10V 爪取付要領図



150ナタ爪 (もみじ刃)

